



Q5

〔共通事項〕とは、どのようなものですか。



A 〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力です。また、音楽科の学習の要として位置付き、授業改善の大きなポイントとなるものです。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編では、以下のように示されています。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。

思考力、判断力、表現力等

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

知識

【中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 p.64, 90 を基に作成】



事項アのポイント



- ・ 音楽を形づくっている要素に関する学習を、我が国及び諸外国の様々な音楽の特徴を捉える窓口として、表現及び鑑賞の各活動と関連させて位置付けること。
- ・ その題材で取り上げる音楽を形づくっている要素は、その題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなること。



*ff*は力強さや大きな喜びを表すことができるけれど、速度や調の変化があると、悲しみや絶望を表すこともできるんだね！



事項イのポイント

10) 各学年の〔共通事項〕の(1)のイに示す「用語や記号など」については、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、次に示すものを音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。

拍	拍子	間	序破急	フレーズ	音階	調	和音
動機	Andante	Moderato	Allegro	rit.	a tempo		
accel.	legato	<i>pp</i>	<i>ff</i>	dim.	D.C.	D.S.	
(フェルマータ)	(テヌート)	(三連符)	(三分休符)	(全体符)	(十六分休符)		

- ・ 単に用語や記号などの意味や名称について知ったり記憶したりするだけではなく、表現及び鑑賞の様々な学習活動の中で、音楽における働きと関わらせて、実感を伴ってその意味を理解できるようにすること。
- 生徒が自分の言葉として、用語や記号などを使うことができるようになること。

この曲の最後の部分は、歌詞に込められた思いを伝えるために *ritardando* して歌いたいね！



【中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 p.117 を基に作成】

ここで留意しなければならないことは、〔共通事項〕＝「音楽を形づくっている要素」ではないということです。音楽科の学習において、「音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉える」支えとなるのは〔共通事項〕ですが、〔共通事項〕の事項ア、イの意味を理解し、適切に位置付けることが重要です。





佐賀県教育センターでは、これまでに〔共通事項〕に関わる研究を行っています。ぜひ、御活用ください。

平成27年度 佐賀県教育センター「個別実践研究」小・中学校音楽科教育研究委員会

音楽の特徴を捉えて音楽を聴き味わうことができる児童生徒の育成

－鑑賞学習における〔共通事項〕を支えた言語活動の充実を通して－

平成27年度 小・中学校音楽科

2 研究の実際

(1) 学習指導要領における〔共通事項〕の考え方

小・中学校音楽科の内容は、**図1**のように「A表現」「B鑑賞」及び「共通事項」で構成されています。「共通事項」は、表現及び鑑賞の全ての活動において共通に指導する内容を示しています。そして、「共通事項」はそれのみを扱うのではなく表現及び鑑賞の各活動の中で扱うようになっています。

小・中学校における「共通事項」の内容は、**表1**のようにそれぞれ**ア**、**イ**を分けて示されています。

図1 小・中学校音楽科の内容構成

表1 小・中学校における〔共通事項〕の内容

〔共通事項〕	
小学校	中学校
<p>「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。</p> <p>(ア)音楽を形づくっている要素</p> <p>音色、リズム、速度、強弱、旋律、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなど</p> <p>(イ)音楽の仕組み</p> <p>反復、間いと替え、変奏、音楽の縦と横の関係</p> <p>身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。</p>	
<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の間を知識し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ること。</p> <p>音楽を形づくっている要素</p> <p>音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など</p> <p>音楽に関する用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。</p>	

学習指導要領全面実施から小学校は4年、中学校では3年が経過し、「共通事項」というキーワードは浸透してきました。

〔共通事項〕といえば、「音色」「リズム」などの要素や音符、休符、記号や音楽にかかわる用

平成27年度 小・中学校音楽科

語のこのみを指すと理解されがちです。しかしながら、〔共通事項〕とは**前頁表1の「ア**、**イ**で示されている要素、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語のみを指すものではありません。

〔共通事項〕は、

- ・音楽を形づくっている要素を**知識し(聴き取り)**、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る(感じ取る)こと
- ・音楽にかかわる用語や記号などについて、**音楽活動を通して理解すること**

ここに示されている「音楽を形づくっている要素」と「音楽にかかわる用語や記号」の具体が**前頁表1**に示されている**ア**、**イ**になります。

ここに出てくる「**知識**」「**感受**」という言葉について、中学校学習指導要領解説には次のように示されています。

知識	聴覚を中心とした感覚器官を通して音や音楽を判別し、意識すること。
感受	音や音楽の特質や雰囲気などを感じ、受け入れること。

「知識」と「感受」は一体的な関係にあると考えるが、指導に当たっては、音楽を形づくっている要素のうち、どのような要素を知識したのかということ、その要素の働きによってどのような特質や雰囲気を感受したのかということ、それぞれ確認しながら結び付けていくことが重要となる。

中学校学習指導要領解説音楽編(平成20年9月) p39

〔共通事項〕は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものです。よって、表現及び鑑賞の各活動と切り離して単独に指導するものではないことを留意しておく必要があります。

〔共通事項〕と表現及び鑑賞の各活動とを関連付けた学習例としては、歌唱の学習において「旋律」「強弱」を知識して特質や雰囲気を感じ、それらと「歌詞の内容」とを関連させて表現を工夫して歌うなどが考えられます。同様に、器楽の学習において「リズム」「音楽の縦と横の関係(テクスチャ)」と「声部の役割や全体の響き」とを関連させたり、音楽づくり(創作)の学習において「音色」「反復」「間いと替え」「変化(構成)」と全体とまわりを関連させたりすることなどが考えられます。また、鑑賞の学習において「速度」「形式」を知識し、特質や雰囲気を感じ、それらと「構造と曲想とのかわり」を関連させて聴き、批評するなどして音楽のよさや美しさを味わうことも考えられます。

このように、〔共通事項〕を支えとして、表現及び鑑賞の各活動と関連付けた音楽の学習を展開することによって、音楽に対する理解を一層深めることができます。

学習指導要領における〔共通事項〕の考え方-1 佐賀県教育センター

平成28年度 佐賀県教育センター「個別実践研究」中学校音楽科教育

音楽の構成原理の確かな知覚・感受をもとにした創作の授業づくり

－音楽科の特質を踏まえた言語活動の充実を通して－

平成28年度 中学校音楽科

2 研究の実際

(2) 本研究における創作指導の考え方と具体的手立て

ア 音楽の構成原理の知覚・感受をもとにした創作指導の工夫

音楽の構成原理とは、「反復」「変化」「対照」などの音を音楽へと構成するための原理のことです。大切なのは、何を、どのように「反復」「変化」「対照」させるかということ、そのことによって特質や雰囲気がどのように変わったかということの感受を関連付けた活動に取り組ませることです。

「反復」「変化」「対照」によって、生み出される特質や雰囲気の例を示します(**表1**)。

表1 構成原理によって生み出される特質や雰囲気の例

反復	<ul style="list-style-type: none"> ・安心感がある ・印象が強くなる ・盛り上がりを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定感がある ・親しみがたつ ・変化が欲しくなる
変化	<ul style="list-style-type: none"> ・面白さを感じる ・緊張感が生まれる ・落ち着いた感じがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展するように感じる ・新鮮な感じがする
対照	<ul style="list-style-type: none"> ・面白さを感じる ・印象が変わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・盛り上がる ・発展するように感じる

例えば、動機を「反復」させたり「変化」させたりし、そのことで特質や雰囲気がどのように変わったか(または、変化したのか)という自分の感受を明らかにし、試行錯誤しながら、音を音楽へと構成していくことになります。「動機を2回反復させてみたら物足りないが、4回だと変化が欲しくなる」「動機を3回反復させてみたら安定感がある」などと、生徒が音楽の構成原理を生かして、試行錯誤すること、その際に生み出される特質や雰囲気を感じ取ることを取り戻しながら音を音楽へと構成することを実感できるような創作活動を展開することが大切です。

音楽の構成原理の知覚・感受を生かして創作の学習に取り組ませるときの工夫をいくつか例示します。

(1) 身近な曲から構成原理を理解させる。

既習曲や生徒が知っている曲を取り上げ、曲の構成について理解を深めます。教科書掲載されている「エーデルワイス」、生徒が誰もが知っている「チューリップ」等、様々な曲で構成について学ぶことができます。例えば「チューリップ」では、1小節目の「さいた」を何回反復しているか気付かせ、どこで変化しているか、どのように変化しているかを考えさせることで構成原理を理解させることができます。このように「さいた」の部分の1小節目が反復しているとも捉えられますが、「さいた さいた チューリップの花が」という4小節目というフレーズが反復しているとも捉えることもできます。

生徒が普段聴いているJ-popなどの音楽にも構成原理はたくさん用いられています。生徒が身近に聴いている音楽の中で、「サビの部分のメロディが何回反復しているか」「どこで変化しているか」といったようなことを考えさせることによって、「反復」「変化」「対照」などの構成原理が、身近にある様々な音楽の中にも使われていることに気付かせることができます。

本研究における創作指導の考え方と具体的手立て-1 佐賀県教育センター

平成28年度 中学校音楽科

(1) 課題や条件を適切に設定する。

音楽の構成原理を生かした創作学習をスムーズに進めるためには、課題や条件を適切に設定することも大切です。設定する課題は、生徒が興味・関心をもって取り組むことができ、イメージしやすいものがよいです。また、条件は、使う音やつくる音楽の長さなど、生徒にとって分かりやすいものにするのが大切です。

例えば、反復したり変化させたりするものとなる短い旋律をつくらせるとき、「民謡音階や琉球音階の5音を用いて」、「ミソラの3音で」といったように、用いる音を決めると、創作学習の経験の少ない生徒にも比較的、取り組ませやすくなります。事やアルトリコーダーなど、器楽の学習で身に付けている技能を把握した上で、例えば、アルトリコーダーの左手の連指だけで演奏できる音に限定するなど、生徒が試行錯誤しながら、音を選んだり、組み合わせたりする際に、器楽の技能の習熟が妨げられないように配慮することも大切なポイントです。また、「4分の4拍子で2小節の長さ」といったように、拍子や長さなどを明確に示すことも考えられます。

初期の創作学習に取り組ませる際には、例えば、**表2**のようなリズム・パターンカードを準備し、その中から、自分のイメージと関わらせてリズムを選んで組み合わせたりすることで、つくらせることも考えられます。

表2 リズム・パターンカードの例

また、反復させたり変化させたりしながら、構成原理を生かした音楽にしていることをねらうとする場合は、あらかじめ、用いるリズム・パターンを指定することもよいと思います。

(1) 構成原理を生かした創作のワークシート

■1は、①図を見て場面を想像する②絵の中の2人の登場人物のイメージに合う1小節の動機をペアでそれぞれつくる③2つの動機を反復・変化させたり、重ねたりして、場面のイメージに合うような音楽をつくるという学習活動のために準備したワークシートです。

階名とリズム呼称を付けてカタカナで記入させることができ、五線に記譜することが難しい生徒も簡便に作品を記録することができます。また、2人の登場人物のパートを上段と下段に分けて両方とも記入させることで、自分のパートだけでなく、2つのパートの関わりを視覚的に理解させることができます。動機を反復させたり変化させたりして自分の旋律をつくりながら、相手と掛け合いしたり、重ねたり、イメージと関わらせて試行錯誤しながら、曲全体を見通して創作活動を進めることができます。

本研究における創作指導の考え方と具体的手立て-2 佐賀県教育センター